手作り紙芝居

「教育のための社会へ」

１枚目／創価教育学体系（６枚目の絵の裏に貼る）

1930 年（昭和５年）11 月 18 日、牧口先生は独自の教育理論を、戸田先生の協力を得て『創価教育学体系』として発刊しました。

同書は評判を呼び、国際連盟事務次長を務めた新渡戸稲造博士は、「現代人が其の誕生を久しく待望せし名著であると信ずる」と、序文を寄せました。

しかし、人が「幸福に生きる」ために「自ら考えること」を重視した牧口先生の“創価教育”は、子どもを国家のための手段にしようとした当時の“軍国教育”とは真っ向から対立するものでした。

「人々の幸福」という自らの信念を貫き通した牧口先生は、「治安維持法」「不敬罪」の容疑で逮捕され、巣鴨の東京拘置所で殉教されました。

２枚目／日大食堂での誓い（１枚目の絵の裏に貼る）

牧口先生の信念を受け継ぎ、戦後、創価学会の再建に一人立った戸田先生は、1950年（昭和25 年）の晩秋、神田の日本大学食堂の片隅で「創価教育学」を理念とする学校の創立を池田青年に託しました。

「大作、創価大学をつくろうな。私の健在のうちにできればいいが、だめかもしれない。そのときは大作、頼むよ」と。

戸田先生は、師・牧口先生と、将来、「創価教育学体系」を大動脈とする大学、高校・中学、小学校、幼稚園を創ることが夢でした。池田先生はのちに綴っています。

「弟子として、何があろうと、必ず自分の手で創価教育の学校を建設しようと、固く、固く、心に誓ったのである」と。

３枚目／創価学園・創価大学の創立（２枚目の絵の裏に貼る）

1964年（昭和39 年）６月、池田先生は創価大学と創価学園（小学校・中学校・高等学校）の設立構想を発表しました。

1960年代、日本には学園紛争の嵐が吹き荒れていました。教育界が混迷を深め、教育の在り方が問われる中、池田先生は「世界の平和に寄与すべき大人材」の育成を主張。「民衆の側に立ち、民衆の幸福と平和を守る要塞」としての教育機関の設立を訴えました。様々な困難を乗り越え、1968 年（昭和 43 年）、東京・小平に創価学園が開校。その３年後の 1971 年（昭和 46 年）には、東京・八王子に創価大学が開学しました。

４枚目／学生のために（３枚目の絵の裏に貼る）

池田先生は、創価教育の精神について次のように綴っています。

「勉強ができない、家が貧しい、家庭が暗い――子ども達の苦しさ、悔しさを全部、知っている牧口先生であり、戸田先生であった。『何でもやろう。この子たちを、ひとり残らず幸せにするために、教師がいるのだ』。創価教育学は、人間への慈愛という『魂の光』から生まれた」と。

池田先生は開学まもない創価学園、創価大学を幾度となく訪問。時には卓球やテニスなどでともに汗を流し、成績不振の生徒や、親元を離れて生活する学生と一対一で対話をしたり、食事会を開いたりと、学生・生徒一人ひとりに対して様々な激励を続けました。

５枚目／世界に広がる「創価教育」（４枚目の絵の裏に貼る）

2001年、カリフォルニア州オレンジ郡にアメリカ創価大学が開学。また、香港・シンガポール・マレーシア・韓国には幼稚園、ブラジルに創価学園・幼稚園が開園しました。

現在、創価教育の学舎には、池田先生の教育思想に共鳴する世界中の識者が数多く訪れ、知性の交流の場となっています。また、インドの創価池田女子大学や、ブラジル全土に広がる「牧口教育プロジェクト」など、創価教育に共鳴した世界の識者がその教育方針を取り入れ、実践しています。

「子どもたちを、ひとり残らず幸せに」――との三代の会長の願いから出発した創価教育は、いま世界を舞台に大きく広がっているのです。

６枚目／教育のための社会へ（５枚目の絵の裏に貼る）

池田先生はつねづね、「二十一世紀は教育の世紀」との信念で行動されてきました。

2000年には「教育のための世紀を目指して」と題し「教育提言」を発表。提言では、「教育」が社会や国家の手段として貶められた近代の歴史に触れ、社会の要請に応じた「社会のための教育」から、一人ひとりの「人格の完成」を社会全体で目指す「教育のための社会」への大胆な発想の転換を求めました。

「社会のための教育」から「教育のための社会」へ――。

その根底には、牧口先生、戸田先生、池田先生の三代の会長が貫いた、「子どもたちの幸福」を願う、「魂の光」が輝いているのです。

決意など